

16年度5月の「ゆったりカフェ」メモ

日時：5月25日水曜

人数：7人参加

会場：音杉公民館

内容：話題持ち寄り



県民カレッジの講座を受講。公民館活動に役立てるために。

めだかの学校に参加。全受講生4名のみ。めだかについて述べる。

- ・めだかそのものの勉強。純粹めだかはいなくなつた。外来種の色つきめだかを見かけることが多くなってきた。

- ・ビオトープ作っても、外来種が入って来て、生態系うまくいかずダメ。

- ・めだかを公民館の池で飼いたい。子どもに見せたいので。

- ・公民館の鯉がイタチにやられてしまった。イタチ対策を考えている。池を網で囲うなど。でもイタチはかわいい顔。トラバサミは禁止となっている。



- ・モリアオガエルの卵をハクビシンが食べにくる。ハクビシン対策を考えている。

- ・イノシシについて、田んぼにきて転がりまわると、米にイノシシの臭いがつく。転がりまわる理由は皮膚についている虫を振り落とすことのよう。



東京に遊びにいった。埼玉県に行きコマ神社を見学した。

(1)コマ神社

- ・700年頃に百済が滅んだ。その時に大陸からコマ人が多数日本に渡ってきた。集落を作り神社をつくった。なぜ日本が彼らを受け入れたかは彼らが優秀だったからである。そうでないと東大寺の造営はできなかつたろう。特に有名なのは高麗からやってきた若光である。

- ・縄文や弥生でオンドルつきの住宅の跡がある。

- ・日本での能登などのお祭りも朝鮮系である。渡来人の影響と思える。

(2)人種

- ・皆さんでの討論：挑戦も日本も同じ人種。何で朝鮮系が忌み嫌われるのか。日本人はあちこちから渡来してきた方々の混合。中国南部や北部の方々がやってきたというミトコントリアの分析結果がある。さらにいえば、人類はアフリカにいた一人の女性を母親としている。百済の姫が点お受けに嫁いだとも言われている。



G7環境相会議にあわせて5月14,15日にサンシップ富山や県庁広場でアースデイがあった。これに参加したので話したい。

(1)足立原氏と向井氏との対談。テーマは「今が未来」である。足立原氏の話を記す。

- ・人間が生きていくには循環の考えしかない。

- ・(大沢野の山間部にて雑草対策で除草剤を空中散布する行政側の施策に対し、環境汚染防止として空中散布をやめさせ、手作業で草刈を実施した。これを草刈十字軍運動と呼ばれている。企画者は足立原先生である。)

- ・空中散布反対だけではダメで、何かをすべきとして草刈十字軍をやつた。

- ・自然保護という表現居は問題あり。自然を上から目線で捉えている。われらは自然の中にいることを認識していない。

- ・(種々の運動について)物事はわかりやすく、楽しくして人の心に響くようにすべき。

- ・持続可能が大事。

(2)アーサービナードさんの講演会。

エリックカール作、ビナード(日本語)翻訳の絵本「ホットケーキ出来上がり」の本について、講演内容を述べられた。氏は本を朗読された。皆さん、うつとりと聞き入っていた。なお、話の内容は、子どもがホットケーキを食べたいと母親に言ったところ、小麦、卵、ミルク、ジャムを用意するようにと言われ、麦畑で麦を収穫し、粉作り小屋で粉にし、などの話があり、最終的においしくいただくというもの

である。

・食べたいというとどこかで材料を買ってきてすぐ調理というのが現代の考え方。ところが、食べたいものも自然界からもってくるというもの。いわばものは製品ではなく、生物とのかかわりのもの。いろいろなかかわりで食が成り立っていることを理解させることが絵本の主旨である。(いってみれば、食育に西部の命を受け継ぐといったことをかもし出すような主張なのであろう。)

・ビナードさんは英米文学の人で日本語のまったく話せない状態で日本に来た。日本に来てびっくりしたことは、文字の多さ(ひらがな、カタカナ、漢字)、漢字の読みとのこと。例えば、石はいし、せき、こくと読む。これは言語の多様性というよりも文化なのであろうと。

みんなで作る街である。

・(*さんから) 上市は歴史を大事にしていない。上市の観光パンフでは歴史を扱ってはいない。



立山寺に行ったとき、立山寺の歴史といった本をもらった。北日本新聞が長く取材していた資料を基に編集したこと。大変貴重な本である。

上市の三大靈場として、穴谷、大岩の日石寺、眼目の立山寺がある。どれも歴史がある。今のうちに主順記録をしっかりとまとめて世に出して欲しい。



6月22日木曜、13:30から音杉公民館にて。



(謙遜して) テーマを持って勉強していないことが分かった。勉強したいと思う。

(1)自然環境

・共生と言う観点では、蛍について寂しい思いを持っている。柿沢ではいなくなつた。子どもに蛍のことを教えられなくなつた。

・敷地内の木を何本も切つた。樹齢は140年ものもあつた。木を切ると、日陰なくなるので蛍はせいそくできなくなつてしまつ。

・(* * 氏は某地域で200年樹齢の三本杉をきらはずにのこしている。)

・朝日新聞では屋敷隣をのぞんでの剣岳の展望として写真を掲載していた。そこは自分の屋敷隣である。

・屋敷林の維持は大変。林は見ごたえあるが近所に迷惑だから。倒木、枝落とし、スンバが。

(2)上市に失望

・各種総会にでている。失望した。世代交代が必要。しかし今はながく務める方が多い。しかも20年もという例もある。

・郷土を愛するのは個人ではなく皆さんの力を合わせてやるべし。次世代を育成しながら、各自がそれぞれの役割を持つて。

・若い人が後を継がなくなつてゐる。まずい。